

「 音 楽 II 」 シラバス

学科	普通科	学年	3 年	類型	I・II	組	1・2 組	単位数	2
使用教科書	音楽Ⅱ Tutti + (トゥッティ プラス) (教育出版)								
副教材等									

1 学習の到達目標

- (1) 音楽の幅広い活動を通して、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び多様性を理解するとともに、創意工夫した表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴く力を身に付ける。
- (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付ける。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期の学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において観点別評価を5段階の評定に統括する。

知識・技能	曲想と音楽の構造や文的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めているか。 歌唱・器楽・創作活動において創意工夫した音楽表現をするために必要な技能を身に付けているか。	(3) (4) (5)
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く力が身に付いているか。	(3) (4) (5)
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組む態度が身に付いているか。	(1) (2) (4) (5)
評価方法	主な評価項目	
授業観察	(1) 学習の状況 (2) グループ活動への参加状況	
実技試験 (作品)	(3) 歌唱・器楽・創作発表 (生徒の相互評価を含む)	
鑑賞レポート	(4) 鑑賞レポート提出	
自己評価シート	(5) 授業の取り組み状況及び自己分析	

3 学習の計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	評価 項目
一 学 期	「ソルフェージュ 1」 聴音・視唱・視奏 「歌唱 1」 イタリア歌曲 日本歌曲 「自己表現 1」 歌唱・器楽 「楽典 1」 音程・音階	・視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付ける。 ・主体的に取り組み、個性豊かな表現を工夫する。 ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及び表現上の効果について理解する。 ・音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を身に付ける。 ・音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付ける。	(3) (5) (2) (3) (5) (3) (5) (3) (5)
二 学 期	「歌唱 2」 ドイツ歌曲 「ソルフェージュ 2」 聴音・視唱・視奏 「自己表現 2」 歌唱・器楽 「楽典 2」 和音・超判定・額五・形式 「鑑賞」 西洋音楽 日本の伝統音楽	・主体的に取り組み、個性豊かな表現を工夫している。 ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及び表現上の効果について理解する。 ・視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付ける。 ・音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を身に付ける。 ・音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付ける。 ・各時代における音楽様式の特徴を理解する。 ・楽曲の構成や要素を理解し、そのよさを味わう。	(3) (5) (3) (5) (3) (5) (3) (5) (2) (4)
三 学 期	「自己表現 3」 受験曲演奏	・演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付ける。 ・音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を身に付ける。 ・音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	(3) (4) (5)

備考 評価項目の(1)については、全ての単元において評価項目として用いる。